



2019年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年9月6日

上場会社名 日本ビューホテル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6097 URL <https://www.viewhotels.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 由明
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 矢島 学 TEL 03-5828-4429 (代表)
 四半期報告書提出予定日 2018年9月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年4月期第1四半期の連結業績（2018年5月1日～2018年7月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年4月期第1四半期	5,372	△3.0	105	△69.0	91	△76.2	△4	ー
2018年4月期第1四半期	5,536	10.2	341	△0.2	383	25.5	260	22.7

(注) 包括利益 2019年4月期第1四半期 △15百万円 (ー%) 2018年4月期第1四半期 263百万円 (22.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年4月期第1四半期	△0.52	ー
2018年4月期第1四半期	27.60	27.46

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年4月期第1四半期	29,580	12,431	42.0
2018年4月期	31,046	12,652	40.8

(参考) 自己資本 2019年4月期第1四半期 12,431百万円 2018年4月期 12,652百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年4月期	ー	0.00	ー	22.00	22.00
2019年4月期	ー				
2019年4月期 (予想)		0.00	ー	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年4月期の連結業績予想（2018年5月1日～2019年4月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	11,100	2.4	500	11.5	400	△13.2	220	27.0	23.33
通期	22,000	3.3	800	29.6	650	8.0	300	1.0	31.82

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 第2四半期(累計)および通期の業績予想の1株当たり当期純利益は、ストック・オプション行使分(2,000株)を含めた期中平均株式数により算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年4月期1Q	9,726,425株	2018年4月期	9,724,425株
② 期末自己株式数	2019年4月期1Q	297,600株	2018年4月期	297,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年4月期1Q	9,428,064株	2018年4月期1Q	9,439,925株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(表示方法の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善によって緩やかな回復基調が続いているものの、人手不足やそれに伴う労務コストの上昇、米国の経済政策や海外情勢の変動および地政学的リスクなどによる世界経済の不確実性などにより、先行きの不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、新規ホテルの開業や民泊の広がりなどによって競争環境が激化しているものの、政府の観光立国推進に向けた政策を背景に訪日外国人客数は引き続き増加し、2018年では7月累計において過去最高を更新するなど、宿泊部門を中心に堅調に推移しております。

このような経営環境の下、当社グループは、第2次中期経営計画に基づき、長期持続的な成長と事業基盤の拡大のための取組みを進めております。当第1四半期連結累計期間では、2018年5月に大阪ビューホテル本町を開業し、当社グループとして関西地区への初進出を果たしました。また、既存事業所の更なる安全性向上を目的とした設備投資を実施した他、安定した労働力の確保や外国人労働者の活用、人材育成の強化、人事制度改革の検討、働き方改革への準備等に取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は大阪ビューホテル本町の開業があった一方で、高崎ビューホテルを2018年1月5日付で事業譲渡した影響などがあり、5,372百万円（前年同期比3.0%減）となり、営業利益は大阪ビューホテル本町の開業費用の計上や人件費の増加などにより、105百万円（前年同期比69.0%減）、経常利益は91百万円（前年同期比76.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益260百万円）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

セグメントの 名称	売上高			セグメント利益又は損失 (営業利益又は損失)			減価償却前営業利益 又は損失(*)		
	前第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)	前第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)	前第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	当第1四 半期連結 累計期間 (百万円)	前年 同期比 増減額 (百万円)
ホテル事業	4,696	4,622	△74	285	130	△155	611	492	△119
施設運営事業	432	434	1	6	9	3	11	15	4
遊園地事業	429	337	△91	47	△36	△83	72	△11	△84
合計	5,558	5,394	△164	339	103	△235	696	497	△199
調整額	△21	△21	0	1	1	△0	1	1	△0
連結数値	5,536	5,372	△163	341	105	△235	698	499	△199

(*) 減価償却前営業利益又は損失＝営業利益又は損失＋減価償却費

①ホテル事業

ホテル事業では、2018年5月に大阪ビューホテル本町を開業し、事業基盤の拡大を図りました。営業部門別の状況としては、客室部門では、前連結会計年度に行った札幌ビューホテルでの客室61室の新設増室が業績に大きく寄与しました。また、引き続き拡大傾向にある訪日外国人旅行者の集客に注力した他、需要動向予測に基づく料金プランの設定により1室当たりの売上高の最大化を図り、好調に推移いたしました。婚礼・宴会部門では、前連結会計年度に行った婚礼・宴会の売上構成比が高かった高崎ビューホテルの事業譲渡が減収の要因となりました。また、浅草ビューホテルでは、宴会は堅調に推移いたしました。婚礼は前連結会計年度後半からの集客の鈍化により苦戦いたしました。婚礼の営業に関しては、そのリソースを浅草、成田、秋田の3事業所に集中させ、業績の回復を図っております。レストラン他部門では、前連結会計年度に実施した浅草ビューホテルや札幌ビューホテル大通公園のレストランリニューアル効果などにより、順調に推移いたしました。経費面においては、大阪ビューホテル本町の開業費用があったことや、安定した労働力の確保のために採用を強化しており、人件費の増加などがありました。

これらの結果、売上高は4,622百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は130百万円（前年同期比54.4%減）となりました。

②施設運営事業

施設運営事業では、ぎょうけい館等のリゾート施設において、団体の集客が伸び悩みましたが、個人の集客を強化するため、インターネットでの宿泊プランの更なる充実を図りました。ホテルプラザ菜の花では、営業体制の強化により、宴会が堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は434百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は9百万円（前年同期比64.1%増）となりました。

③遊園地事業

那須りんどう湖 LAKE VIEWでは、ビューホテル本社営業部の管轄・機能を拡大して集客力を強化するとともに、社外コンサルタントを導入し、新アトラクションや新たなPR・広告手法を取り入れ、話題を呼び、リピーターを増やす戦略・戦術で立て直しを図っております。また、販売料金体系の見直しを行うなど、将来に向けた抜本的な利益体質への転換を図るための施策を実行しております。

これらの結果、売上高は337百万円（前年同期比21.4%減）、営業損失は36百万円（前年同期は営業利益47百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第1四半期連結会計期間末における資産の合計は、29,580百万円（前連結会計年度末31,046百万円）と、1,466百万円減少いたしました。

うち流動資産は、4,020百万円（同5,242百万円）と、1,222百万円減少いたしました。これは、主に現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、25,559百万円（同25,803百万円）と、244百万円減少いたしました。これは、主に減価償却による有形固定資産の減少によるものであります。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債の合計は、17,148百万円（前連結会計年度末18,393百万円）と、1,245百万円減少いたしました。

うち流動負債は、4,620百万円（同5,229百万円）と、608百万円減少いたしました。これは、主に買掛金の減少によるものであります。

固定負債は、12,527百万円（同13,164百万円）と、636百万円減少いたしました。これは、主に長期借入金の減少によるものであります。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産の合計は、12,431百万円（前連結会計年度末12,652百万円）と、221百万円減少いたしました。これは、主に剰余金の配当の支払いおよび親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。この結果、自己資本比率は、42.0%（前連結会計年度末比1.2ポイント増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年6月9日の「平成30年4月期決算短信」で公表いたしました第2四半期累計期間および通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,749	2,164
売掛金	977	1,031
貯蔵品	207	200
未収還付法人税等	157	187
その他	989	311
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	5,081	3,894
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,079	13,172
機械装置及び運搬具(純額)	266	267
工具、器具及び備品(純額)	495	561
土地	5,611	5,611
建設仮勘定	396	50
リース資産(純額)	4,735	4,650
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	24,585	24,312
無形固定資産	46	47
投資その他の資産		
投資有価証券	56	53
長期貸付金	94	94
繰延税金資産	393	380
その他	889	897
貸倒引当金	△101	△100
投資その他の資産合計	1,333	1,324
固定資産合計	25,964	25,685
資産合計	31,046	29,580

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	904	392
1年内償還予定の社債	165	165
1年内返済予定の長期借入金	1,922	1,913
リース債務	326	356
未払金	1,244	1,144
未払法人税等	2	20
未払消費税等	58	164
賞与引当金	326	165
ポイント引当金	3	—
その他	274	298
流動負債合計	5,229	4,620
固定負債		
社債	88	88
長期借入金	7,632	7,142
リース債務	4,879	4,760
退職給付に係る負債	224	211
資産除去債務	43	42
長期未払金	164	151
その他	131	131
固定負債合計	13,164	12,527
負債合計	18,393	17,148
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,791	2,792
資本剰余金	1,711	1,712
利益剰余金	8,357	8,145
自己株式	△408	△408
株主資本合計	12,452	12,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12	10
退職給付に係る調整累計額	191	183
繰延ヘッジ損益	△3	△4
その他の包括利益累計額合計	200	189
純資産合計	12,652	12,431
負債純資産合計	31,046	29,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
売上高	5,536	5,372
売上原価	1,280	1,157
売上総利益	4,256	4,215
販売費及び一般管理費	3,915	4,109
営業利益	341	105
営業外収益		
受取補償金	57	—
その他	19	26
営業外収益合計	77	26
営業外費用		
支払利息	33	36
その他	1	5
営業外費用合計	34	41
経常利益	383	91
特別利益		
固定資産売却益	21	—
投資有価証券売却益	3	—
特別利益合計	24	—
特別損失		
固定資産除却損	21	67
その他	0	0
特別損失合計	21	68
税金等調整前四半期純利益	387	22
法人税、住民税及び事業税	56	9
法人税等調整額	69	18
法人税等合計	126	27
四半期純利益又は四半期純損失(△)	260	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	260	△4

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年5月1日 至 2017年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	260	△4
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△1
退職給付に係る調整額	△1	△8
その他の包括利益合計	3	△10
四半期包括利益	263	△15
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	263	△15

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年5月1日至2017年7月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,691	416	428	5,536	—	5,536
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5	16	0	21	△21	—
計	4,696	432	429	5,558	△21	5,536
セグメント利益	285	6	47	339	1	341

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2018年5月1日至2018年7月31日)

報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ホテル	施設運営	遊園地	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,618	416	337	5,372	—	5,372
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3	17	0	21	△21	—
計	4,622	434	337	5,394	△21	5,372
セグメント利益又は損失(△)	130	9	△36	103	1	105

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額は、事業セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。